

義務教育学校設置に係る保護者意見交換会を実施しました

12月5日（日）に、第五中学校区義務教育学校設置にかかる保護者意見交換会を、貝塚市教育研究センターで行いました。当日は20名の保護者の皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。

今回の意見交換会では、先日実施した保護者アンケートの結果の報告のほか、学校生活などについて具体的に説明しました。その内容についてお知らせします。当日の資料は、二色小学校、第五中学校、浜手地区公民館で配布しています。

*義務教育学校においては、小学校課程を「前期課程」、中学校課程を「後期課程」と言います。

・学校生活について ⇒ 他市の義務教育学校の例を参考に今後準備委員会を立ち上げて決定します。

【他市の義務教育学校の例】

1日のスケジュール	授業時間が前期課程45分、後期課程50分であるため、前期課程の休み時間を調整し授業開始を同時刻にしています。
入学式・卒業式	1年生で入学式、9年生で卒業式を行うほか、小学校卒業時にあたる6年生では修了式、中学校入学時にあたる7年生では進級式を行っています。
修学旅行等	修学旅行は6年生と9年生で実施しています。その他の宿泊学習も、他の小中学校と同様に実施しています。
運動会・体育大会	前期課程と後期課程、合同で実施しています。
制服	多くの学校は前期課程と後期課程で同じ制服を着用しています。後期課程のみ制服着用为学校もあります。
チャイム	前期課程と後期課程で2種類のチャイムを鳴らしている学校やチャイムを全く鳴らさない学校があります。
給食	多くの学校で前期課程と後期課程ともに学校内で調理した同じ給食を提供しています。
PTA	1つの学校であるため、PTA組織は前期課程と後期課程を合わせて1つになっています。

・学習の進め方 ⇒ 基本的に今まで通りで、他の小・中学校と大きく変わりはありません。

各学年の学習指導内容は「学習指導要領」で定められおり、義務教育学校になってもこれまでと変わらないため、転出・転入や私立中学校入試などへの影響はありません。また、テストも基本的にはこれまでと変わることはなく、前期課程では単元ごとにテストを行います。例えば他市で実施されているように、6年生で定期テストを体験的に取り入れることもできます。

教科担任制については、現在二色小で外国語、家庭科、図画工作の3教科について実施しています。義務教育学校になれば前期課程の5・6年生でより多くの教科で教科担任制を導入する予定ですが、子どもたちの状況や学級担任の担当する教科とのバランスを考えながら進めていきます。

成績のつけ方についても、前期課程、後期課程ともにこれまでと変わりません。また、高校入試に関係する5段階の評定についてもこれまで通りで、他の中学校と変わりはありません。

・期待される効果

- 教科担任制による学力向上
- 小・中の段差解消と不安の払拭
- すべての先生で子どもたちを理解
- 幅広い学年の交流による心の育成
- 安定した教育環境の維持
- 6年生からの部活動

・想定される課題への対応

○教科担任制により、担任と子どもたちの関わりが減るのでは・・・

⇒前期課程5・6年生では全授業の3割から4割が教科担任制となる予定です。学級担任制のよさと教科担任制のよさを生かしながら、担任と子どもたちとの時間の確保に配慮していきます。

○6年生時の区切りがなくなることで、小学校と中学校の差が不明確になるのでは・・・

⇒修学旅行や卒業式など、節目となる行事は今まで通り行う予定です。また、後期課程への進級時には進級式を行ない、オリエンテーションとしてデイキャンプを実施するなど、心機一転の機会となるよう取り組んでいきます。

○6年生のリーダー性を育てる機会が減るのでは・・・

⇒児童会と生徒会のあり方や委員会活動、たてわり活動における役割分担を工夫し6年生のリーダー性を育てる機会を設けます。また、前期課程のみで行う取り組みでは、これまで通り6年生が最上級生としてリーダー的な役割を担います。

・施設使用と安全対策

○運動場と体育館

視察した学校では、前期課程と後期課程の体育の授業が重ならないようにするなどの配慮をしており、その点は本市でも参考にしていきます。また二色小の中庭を改修し、遊具を配置して児童の遊び場を確保します。

体育館は2つに分けて使用できるようにネットを設置します。

○校舎

1階に1～3年生、2階に4～6年生、3階に7～9年生の教室を配置する予定です。1学年か2学年に1部屋、予備の教室を配置し多目的に使用できるようにします。

また、後期課程が使用する3階のトイレは、中学生仕様となるよう改修します。

・校区再編の考え方

⇒本市では現在のところ校区の再編は考えていません。理由は以下の通りです。

- まちの開発によってその地区の子どもの人数の増減が想定されますが、それを理由にその時々には校区の再編は行いません。
- 子どもたちは地域に密着しています。校区が変われば今までの学校や地域と切り離されることとなります。地域で子どもたちを見守り育てていくことが大切であると考えます。
- 校区は通学の安全性や生活区域等を考慮して定めています。
- 校区は長い年月にわたり定着しているもので、変更すると地域住民のコミュニティを壊しかねないと考えます。

～質疑応答・意見交換でいただいたご意見や質問から～（一部抜粋）

***義務教育学校について、他市を視察している中で、想定されていなかったデメリットはなかったのか？**

⇒ 中学校の教諭で、教科担任として小学校で指導することになじめない人がいたという例があった。逆に小学校の教諭と中学校の教諭がお互いに良い点を見出し、指導方法などを取り入れている例もあった。中学校の教諭は小学生を指導する際、優しく丁寧に接する人も多いようである。五中校区が義務教育学校になれば9年間を1つの学校で過ごすことになるので、高校に進学してから新しい環境にうまくなじめるか不安という声もあるが、子どもたちはこの校区でしっかり育ち、高校へ進学していると考えている。

***前回の説明会より、今回話をきいてイメージができた。気になるのは五中が避難所に指定されていること。高齢者も増えているので配慮してほしい。**

⇒ 五中の校舎以外でも、二色地区ではマンションなど多くの高層の建物を津波避難ビルに指定している。跡地利用が決定するまでは現状通り五中の校舎は避難所として使用し、跡地利用が決定した後も避難所として残せるよう検討する。

***五中の教員が不足することはわかるが、このままいくことは無理なのか。**

⇒ 令和6年度には、明らかに中学校の教科数に対して教員の配置数が不足するので、それ以降は安定した教員配置が困難になる。このことは一時的なものではなく今後の解消が見込めないため、安定した教育環境維持のために、1つの学校として教員が配置できる義務教育学校の設置を考えた。

***子どもが少なくなるので仕方ないから合併するという印象があったが、今日話を聞くとメリットがたくさんあるとわかった。義務教育学校の設置はメリットがあるから行うのか、それとも現状の打開が目的なのか。またデメリットは？**

⇒ 五中校区はもともと一小一中であることから、市内でも先進的に小中一貫教育を進めてきた。五中の教員が不足することが問題になった際に、五中校区なら今までの小中一貫教育の実績もあり、義務教育学校にすることで安定した教育環境が維持できるとともに、二色小と五中の取組みのよい面を引き出せると考えた。

デメリットについては、小学校では高学年で教科担任制を実施することで、一部教科で担任以外の教諭が授業することに子どもたちが不安に感じることを考えられる。この点には学級担任制と教科担任制のバランスを配慮して、それぞれのよさを生かしていく。また、小・中学校の区切りがなくなることもデメリットとしてあげられるが、小学校の卒業式や中学校の入学式に当たる行事は行っていく予定である。視察をした学校の中には、義務教育学校のよさは一つの学校であることなので、区切りをつけることはあえて必要ないのではという声もあった。開校後、子どもたちの様子を見ながら、よい形になるよう考えていく。

***小・中学校の区切りがなくなるのはデメリットと考えている。環境の変化があって、それに対応していく経験は必要ではないか。**

⇒ 小・中の区切りがなくなることをデメリットと捉えることがあるが、「自分がよく知っている先生がいる、自分のことをわかってくれている先生がいる。」という安心感は、子どもたちにとってメリットとして大きいのではないかと考えている。

***義務教育学校の話は急なことだと思った。令和6年度に五中の教員不足になるから急いだのか？**

⇒ 教員不足が問題になる令和6年に開校できるよう準備をしている。この問題はこの先改善されるとは考えにくく、先延ばしにすることなく、中学校3年間の教育環境の安定をはかりたいと考えている。

***移行期間中はどうなるのか。一旦五中に入学し、義務教育学校の開校で二色小の校舎に戻る学年の子どもたちについては？**

⇒ 開校に向けて小中連携の取組みを増やし、移行期間にあたる学年の子どもたちがよりスムーズに移行できるよう配慮する。

***今回の義務教育学校の設置は、胸を張って子どもたちのためによい環境を整えていくためと言えるのか。**

⇒ かねてより、この校区の保護者には転勤する方が多いがパークタウンの環境がいいからと定住を決める方も少なくない。また自分の育ったこのまちで子育てをしようとして戻ってきた卒業生もいる。このような教育環境をできるだけ変えることなく、この校区で義務教育期間の9年間を過ごせるようにすることが一番の目的であり、その手段として最善と考えたのが義務教育学校の設置である。

***二色小で行われる工事のことが心配。また特認校のことを教えてほしい。**

⇒ 工事は基本的に夏休みなど長期休暇中に行う。長期休暇中以外は、大きな音が発生する作業は休日に行うなど配慮する。現在二色小と五中では英語や外国語活動に力を入れており、この取組みは特色として今後も続けていきたい。このように特色ある学校に市内どこからでも通学できるのが特認校制度。まずは義務教育学校として開校したのちに特認校については検討していく。

***教職員のオーバーワークが気になる。また教員が不足するとの話だが、そもそも教員の定数を見直すことはできないのか。**

⇒ 視察した学校では、義務教育学校になった当初は慣れていないことから仕事量が増えたという教職員もいたが、年々仕事が精査され緩和されていったという話があった。また、基本的に教職員の役割分担である校務分掌については、2校分が1校分になるため負担軽減ができると考えている。教員の定数については国が定めるもので、市レベルの話ではない。国の動向を見守りたい。



～参加者アンケートから～ ご協力ありがとうございました。

「今回の意見交換会でわからない点や不安な点は解消しましたか」の問いには、「おおむね解消された」は75%、「一部解消されたが解消されていない点がある」は25%、「ほとんど解消されなかった」は0%でした。

「子ども達のことを第一に考え、安心して通える学校づくりをすすめてほしい」や「子どもたちや保護者とともに新しいそして二色らしい義務教育学校を作ってほしい」というご意見、「地域の方も説明会に参加できるようにしてほしい」や「引き続き丁寧な説明を望む」というご意見、「五中の跡地を有効に利用してほしい」というご意見をいただきました。

第3回第五中学校区における義務教育学校設置説明会

日時：令和4年1月20日（木）19時～21時

場所：浜手地区公民館2階ホール

今回は、義務教育学校守口市立さつき学園水川登志雄校長をお招きしお話を伺います。その後意見交換を行います。みなさま、ご参加ください。

